

手復

手復 挨拶のお手紙 恐縮に存じました。幸る一日
病気のことを 鼓より 歩きまわして 早速お見
舞に上りたく思ひながら 敬事紛々一多し以
酒一 近かくはなるはかりてしたるから 先施
お梅さんに 粗いとお頼みした次第もした
最初は 難症でありました也 一か一経過は良
好な経過の運命を ありましたこと 大覚に
存じます。 尚 十分歩加養生の上 歩本復を
祈つてやみません。
小生は 昭和五年の五月に やはり之月 腸炎
にて 東大小石川分院にて 手術を 受せし
た。 字状之目 腸炎といふので 幸三日で退院
しました。 在病は 前年 秋に 手術の 痕が 回
んでおわて 八と 春二つ ありやうな 恰好です。

盲腸を手術すると 却て 健康に あり ます。 将来
いよ 歩 頑健に あり ます。 信 います。
何れ 様を 得て 盲腸 炎を 一席 致した
いふので ます。 小生の 手術は 斜に 切つて あります
直角に 切るのと こと 通り あり ます。 せ
先づは 不取敢 お見 察 まで
お梅さん ます よろしく お 傳 へ 下 さい。

二月八日夕

上林 晴

小林直を郎様

杉の五區 矢沢

上林 晴

二月八日夕